
蝶夏の戦国日記

界軌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蝶夏の戦国日記

【Zマーク】

Z3015P

【作者名】

界軌

【あらすじ】

連載中の小説『乱世を駆ける牙と傍らに遊ぶ蝶と』の主人公・蝶夏の日記です。彼女が思つたことをつらつら書き上げていきます。本編との整合性が取れなくても、あくまで蝶夏が書いているのであつて、作者（界軌）の閑知するところのものでは無いので、あしからず……。（苦笑）

口記 | 口皿の口記（前書き）

ようやく本編での話がここまで進んだので始められます。
『乱世を駆ける矢と傍らに遊ぶ蝶と』の主人公・蝶夏の戦国口記です。

思ったことを書き連ねていぐだけなので、面白みは薄いかもしれません。
時々、例のあの人気が登場する予定。

宜しくお願ひします。

茅乃にもうつたノートに日記を書くことにしましたー。

茅乃は、お世話をしてくれている小動物系のお姉さまです。
なんか、すき。クールだし。ちょっとドライなところが、あこ
がれの大人の女！ってかんじ。

とりあえず、こっちに来てからのことについて書いていこう
と思います。

……なんで、書くほうは敬語にできるんだろう？

第一日目

危険人物一号との初対面。

あいつ、最悪。

生まれて初めて、ブラックアウト！

しんじらんない。貧血でブラックアウト！！

ムカつきすぎて、これ以上書くことなし！

よろでいただも、おひがといひれこます！ B ヲ蝶夏。

今日は、やつて放つておかれた一日でしたー。

忙しいんだって。

その代わり茅乃と、方輔が勉強と囲碁を教えてくれた（^ ^）

／わーい。

って言つても勉強は、文字の読み方書き方だけね。

「いつのひらがなは、みみずがくねくねしてゐようじしかみえないし。

ビッククリしたこと 食事が2食！朝とおやつの時間くら。腹
へりへ。

お風呂は服着たまんま！なんか、茅乃がスキルアップしてゐ
まけっぱなし？？

……ふで、書きこくこ。

うつ。墨落ちた。すみつて字がつぶれた。

やつてやられるかーー！

「」のもの読んで下さって有難う御座います。笑。

最後は筆を投げ出した蝶夏です。

でも、ここまで書けば頑張った方だと思います。
私も年始の書初めが苦痛だったタイプなので……。

裏・戦国日記 開幕（前書き）

裏・戦国日記とは、蝶夏の親友・小金井ひよりによる、超偏った戦国豆知識（？）です。

妄想大好き娘なので、不快な表現がある可能性が大です。

ご注意ください。

皆さん、こんにちは。こんばんは。

ワタクシ、橘蝶夏の大親友で小金井ひよりと申します。

この度、本編の三田田が長過ぎて『蝶夏の戦国日記』の投稿が全く進んでいないことを憂えたワタクシが『裏・戦国日記』の執筆を買って出ました！

自他共に認める腐女子、あ、間違えた、歴女のワタクシが、皆さんに戦国時代の豆知識を披露する場とさせて頂きたいと思います。

今回は何の話をしようか、かなり悩みました。

蝶夏が今いふ時代の話をすると、うつかりネタバレしかね無いので、そこは避けるとして……。

そういうえば、蝶夏が信長様によるお姫様抱っこ中に、ワタシなら一千万でもその状況を買つとか言つたみたいですが、とんでもない！一億だつて払いますとも！超出世払いですね。

話がそれちゃいました。

今回は信長様台頭前の戦国時代について多少語らせて頂きマス。特に有名なのは、越後の上杉、甲斐の武田ですかね？彼らの戦国大名に名乗りを上げる前の頃の話になります。

まあ、同じ天文年間なので蝶夏が戦国時代に行く前の一十年からこちらの間にことになりますけどね。

今回は独断と偏見で、越後の上杉にします。

じいじらは、最近ノリでやっていた「天人」が有名です。別に

伏字にしなくていいと思いますが、何となくです。

まあ、あの大河ドラマで某男前俳優が演じていた上杉謙信様です。
天文13（1544）年に初陣を飾られた際は長尾景虎様と名乗
つていました。

つまり、関東管領の上杉家の出身では無かつたんです。ちなみに、長尾家でも次男なので、本当は家督を継ぐ予定でも無かつたんです。だから、兄の晴景が長尾家当主の座に着くと、仏門に入ります。七歳で出家しちゃつたんです。もつたいない。いえ、だからこそ後年のストイックさが現れたといつものでしょつか……。生涯不犯とか言っちゃうんです。

どうしてそんな事になつたか想像するだけでご飯三杯はいけちゃうんです。なぜつて仏門には衆道が……げふんげふん。（自主規制）えーそれですね、その七年後に呼び戻されちゃうんです。

十四歳で初陣を飾ります。

まあ、快進撃だったようで。なんとその功績から十九歳の時に長尾家当主に祭り上げられます。当時、戦上手がどれほどの価値を秘めていたかが伺えますよねー。

とまあ、こんな感じでこれからも時々お邪魔しちゃいます。
喰っちゃつても文句は言わせないです。

ああ……。蝶夏、早く伊達政宗様に会わないかなあ。
そしたら独眼竜の懐刀と言われた片倉小十郎氏とのげふげふんな
関係リサーチしてもうつって言つのに……。

裏・戦国日記 開幕（後書き）

本当に、いろんなもの読んで頂き有難う御座いました。
あ、ひょりに消しゴム投げられた。いて。

本日は晴れ。

な」「や城の外に行つてきました。那古野、うし。

あの、かずき、つて着物は以外と暑くなくて良かった。
麻とか使つてゐるのかな?

馬!馬小屋に行つたけど、信長の馬、でつつか!くて態度悪!
名前は茜丸。漢字これであつてゐるのかな?
目が赤く見えたのは・・・・・・氣のせい?

信長の部下 かつざぶらう さん(茅乃の弟)

ながひで?さん(和製ロボット)

訪問先は、かやつ?

この間いくさをしたらしい。

さかいだいぜん?とかいう奴の生き靈が発生。

あたし靈能力ないのによくみえたなあ・・・・・・。

とりあえずムカついたから、言いたいこと言つてやつたもんね!
それですつきりしたし。

ひよりが言つには、暴言を吐かないあたしは「陸揚げされたトド」
らしい。・・・・・どういう意味だ?つていうか、トドつて自分
で陸に上がるよね?

あつそそう。途中の村でこどもにいっぱい会いました。

妖怪の子孫にもあつたし。みんな可愛かつたなあ・・・・・。
やつぱ弟か妹欲しかつたなあ。

ついで、何か、日記を書いてると、懐かしくもおもしろい気配
がしてくるんだけど・・・・・・
なに??

おやましこ 気配云々はざつでもいいが、お前、字が汚すきるぞ

読んで頂き有難うございました。

もちろん『裏・戦国江戸記』は蝶夏に読めるはずも無く……。
わかるのは気配のみです。

裏・戦国口記 一回目（漫畫化）

伸び玉張つておこつもした。

「さてまは。」とばんば。

「存知、小金井ひよじです。」

早速再登場です。いえーーー！

「そんじー緒こ、いえーーー！（^o^）ー

さてさて今回は、戦国時代の成り立ちなんて語りうちいましょうかね？

え？前回は上杉謙信様について語ったんだから、今回は武田信玄様についてが順当だろ？

…………おつわんは趣味じゃないんです。

というわけで、戦国時代についてです。

現在、こう呼ばれている時代は、室町時代の後期から始まります。

時の室町將軍は八代・足利義政。

京都にある銀閣寺を建てた事で有名ですね。

まあ、銀閣寺っていうのは通称で、お寺としての名前は慈照寺じよしょうじです。

その観音殿なんですよ、銀閣っていうのは。

で、その義政將軍様はですね、將軍なんかやつてらんなかつたんですね。さつさと位を次に譲つちゃいたくて、子どももいなかつたもんだ

から弟の義視さんに譲ると約束をしたんです。

でもその後で正室との間に子どもが出来ちゃうんですよ。

もう展開、判っちゃいますよね。

自分の子どもを次期将軍にしたい母親と、譲つてもうつ約束をしていた第一派との対立が『応仁の乱』つていつ内紛にまで発展しました。

この乱が終わつた後つてのは、もう、室町幕府に諸国を纏めいく力は無くなつてたんですね。

そりや そうですよねー。

お家騒動に四苦八苦してちや、誰もついて行きたくなくなりますよねー。

しかも当の八代将軍は芸術や宗教にのめりこんじやつてたんですから。

室町幕府が興つた当初、将軍の下には『守護大名』がいて、自分の領国を治めていました。

領国とは、まあ、言つてしまえば領地ですかね。ちょっと『国』に対する意識が現在とは違つていたので、一概にはそう言い切れないんですが、都道府県よりもっと独立国家チックだったと考えていただければいいかな……と思います。

で、その守護大名の下に、彼らに仕える上級役人の『守護代』。

その下に領国の有力武士である『国人』。

更にその下に百姓、と続くピラミッド構造を有していました。

しかし応仁の乱以降は幕府が力を失うに連れて、この守護大名や守護代が力をつけていきます。

ぶつちやけ、「幕府が頼りにならないから、俺達自分で何とかするしかないゼー！」的な心境だったのでは。

そして、かの有名な『下克上』つてやつが全国で横行するわけで

す。

実力主義、弱肉強食。

この甘美な響きが世に蔓延つていったんですね！

う、うふ、うふふ。

とまあ、黙約するところなどないでしょ？

尾張国の内情については後々蝶夏と一緒に知る」ことが出来るとは思ひます。

界軌には精々頑張つて話を進めて貰いましょう。

わい。蝶夏はうひうひと「タクシの気配を感じ取つてゐるよ」ですが。

悪寒を感じる「うじや」、甘い「うじ」。

そう簡単に語りせると思つたよーつて感じですね。

ではでは、今回は「うじ」で……。

裏・戦国口記 一回目（後書き）

またしても、こんなもの読んで頂き有難う御座いました。

注釈があります。

武田信玄おっさん説ですが、これはひよりの偏見です！
誰だつて年取ればおっさんです！

注釈になつてないですね……。おかしいな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3015p/>

蝶夏の戦国日記

2011年2月3日00時51分発行